

- ガラス目地
- サッシまわり
- 金属まわり
- モルタルまわり
- プレハブ住宅まわり
- 台所・洗面所まわり
- 水まわりの防水シールに

用途

水回り

屋内・屋外どちらもOK!!
防カビ剤入りで色が揃う!!

しかも最短翌朝の自社配送システム

PROFESSIONAL

Silicone caulking

1 成分形オキシムタイプシリコーン

シリコンコーキング

防カビ剤入り

クリア ホワイト アイボリー アイボリーC アンバーK ダークブラウン シルバー ライトグレー グレー キングロ(カワラ) ブラック

JSIA 日本シーリング材工業会
ホルムアルデヒド汚染対策認定品

●本製品は厚生労働省指針値策定の以下の13物質を使用していない。ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、パラジクロロベンゼン、エチルベンゼン、スチレン、クロロピリホス、フタル酸ジ-n-ブチル、テトラデカン、フタル酸ジ-2-エチルヘキシル、ダイアジノン、アセトアルデヒド、フェノカルブ
※本製品は日本接着剤工業会策定（以下の4物質、2008年2月1日現在）の基準値に適合している。トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン。



SILICON CAULKING
Sato Chemical Co.,Ltd.

防カビ剤入り

1成分形オキシムタイプシリコン
シリコンコーキング



使用方法

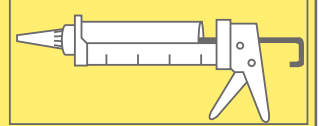
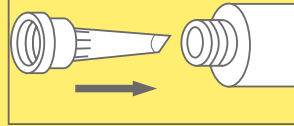
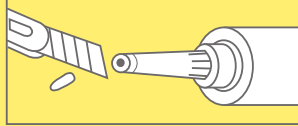
→ まずはコーキング専用ガンをご用意ください。

使用上の注意を良く読み
必ずコーキング専用ガンに
セットしてご使用ください。

標準
施工量

目地幅	10mm×10mm	3m
	5mm×5mm	12m

メンテナンス



- ①刃物でケガをしないように注意
- ②防湿膜を破ります。中身がしなから、ノズルの先端を目地幅 飛び出さないように注意してよりやや小さめにカットします。 ください。
- ③正しくガンに装着し、中身が飛び出さないように注意して、ガンを引きます。



- 1 ノズルを目地幅に合わせて切り、ノズル内の防湿膜を太い針金などで突き破ってください。
- 2 被着面は十分に清掃、乾燥してください。
- 3 なるべく換気の良い所でお使いください。
- 4 被着面の材質によっては、プライマーによる前処理が必要です。
- 5 ヘラ押え（仕上げ）は施工後すぐに行ってください。
(タックフリーはおおよそ15分ですが、季節・施工時期等の諸条件により異なりますのでご注意ください。)

一般性状

主な性状例／硬化前 (JIS A1439に基づく試験結果)*代表値

外 観	ペースト状	
比 重	1.03	
スランプ(mm)	横	0
	縦	0
タックフリータイム(23℃)分	10	

建築用 1成分形シリコン系シーリング材
無酢酸形(オキシムタイプ)



注意事項

- ①取扱時には、保護眼鏡および必要に応じて保護手袋を着用してください。
- ②眼に入った場合には、ただちに流水で15分以上洗い流し、医師の診察を受けてください。
- ③長時間にわたり皮膚に付着したままにしないでください。
- ④本品は硬化中にメチルエチルケトオキシム (MEKO) を発生します。
MEKOを長期間、大量に吸入させる動物実験では、一部に障害が見られます。
長時間大量に吸入すると健康を害する危険性がありますので換気をよくしてご使用ください。
- ⑤子供の手の届かない所に保管してください。
- ⑥本品は塗料はのらないので注意してください。
- ⑦本品は使用方法・使用条件によって本来の性能を発揮できない場合があります。
事前に目的の用途に適合するかを必ず確認の上、ご使用ください。
- ⑧一部の合成ゴム (EPT、クロロプレンなど) と接触すると、シーリング材が変色することがありますのでご注意ください。
- ⑨硬化時に密閉状態になるような条件では、銅腐食が発生する場合がありますのでご注意ください。
- ⑩外壁目地などに使用すると目地周辺が汚れることがありますので、ご注意ください。
- ⑪乾燥時間・標準施工メートル数は、気象条件や目地性状により異なります。
- ⑫直射日光を避け、湿気の少ない冷暗所 (5~25℃) に保管してください。
- ⑬使い残したシーリング材は硬化してしまうため、開封後は速やかに使い切ってください。
- ⑭エアガンを使用する場合、3kgf/cm² 以下でご使用ください。
- ⑮本来のシーリング用途以外には使用しないでください。
- ⑯その他製品について御不明な点は、弊社に御相談ください。

FOR CONSTRUCTION ONLY

本製品は、建築・土木用途向けに開発・製造されたものです。
その他の特殊用途に使用される場合には、使用者にてその安全性を事前に、ご試験ご確認のうえでご使用ください。
なお、体内に埋植、注入する用途、または体内に一部が残留するおそれのある用途には絶対に使用しないでください。

詳しくは安全データシート(SDS)をご覧ください。